

「出会いの季節に」自分自身を見つめる

誰もが安心して暮らせる社会を築いていくには、私たちが人権感覚を磨き続けていくことが欠かせません。そのためには、正しく知ること（認識力）、自分自身を問い直すこと（自己啓発力）、そして具体的な行動に移すこと（行動力）が大切です。4月は、多くの人にとって「始まり」の季節です。入学、新社会人、新しい部署への異動、新生活…。期待と同時に不安を抱えながら、新たな一歩を踏み出す時期ではないでしょうか。そんな新しい出会いや関係が生まれるこの節目の時期だからこそ、私たちの「普通」について、見つめ直してみたいと思います。

「普通」って何？

日常の中で、「普通はこうだよな」「みんなそうしているよ」と口にしてしまうことはないでしょうか。働き方、家族のかたち、子育ての方法、進路の選択、人との関わり方など、社会の中にはさまざまな「普通」があるように見えます。

この「普通」は、私たちの人生経験の中で形成されたものであり、「一般的」や「多数」といった意味を簡潔に表

すことができるものです。そして、その場の共通理解を得やすい便利な言葉ともなります。

しかし、その「普通」が、すべての人に当てはまるとは限りません。それは、人の数だけ生き方があり、価値観があり、それぞれ異なる背景や事情があるからです。それにもかかわらず、自分の「普通」というものさしで相手を捉えてしまうと、知らず知らずのうちに偏った見方につながったり、画一的に見られることに息苦しさを感じる人を生んでしまったりします。

自分にとっての「普通」が、思いがけず相手の心を傷つけてしまわないようにするためにはどうするとよいのでしょうか。

私は、自分を知るという営みが大切であると考えます。つまり、自分の思考のクセや傾向に「気付くこと」が重要だと考えます。

「気付きを通して自分を知る」

先日、人権講話で性的マイノリティについてお話しする機会がありました。ひと通り、性的マイノリティについて説明した後、自分事として考えていただける

ように三つの質問をしました。一つ目は、自分の言動を振り返る問いです。参加者の反応を見ると、自分事として考えやすかったように感じました。二つ目、三つ目は「もし〇〇だったら…」という仮定の問いです。これは、「実際にそうならみないと分からない」「想像するのは難しい」という声が聞かれ、なかなか自分事として考えることが難しいようでした。

しかし、私はその営みこそが重要であると受け止めています。「分らない」「想像しにくい」と自分自身で気付くことと自分が、自分の立場や価値観を見つめ直す出発点になると考えているからです。何を「当たり前」や「普通」として受け止めているのか。そこに「気付き、目を向ける姿勢が、人権感覚を磨く第一歩になるのではないのでしょうか。

「気付き」の積み重ねが作り出す社会

私たちが無意識に使っている言葉の中には、長い時間をかけて形成されてきた価値観が含まれています。一方で社会は変化し、多様な生き方や価値観が尊重さ

れる時代へと進んでいます。「私の「普通」は、誰かにとってそうではないかもしれない」と「そのことに気付くだけで、私たちの言葉や行動は少し変わるかもしれません」。4月という新たな始まりの季節に、自分の中にある「普通」や「当たり前」について目を向けてみませんか。もしかすると、その営みの中で「気付き」が何気ない言葉の変化につながるかもしれないかもしれません。そして、その小さな「気付き」の積み重ねが、互いを尊重し合い、誰もが安心して暮らせる社会を築いていく力になると信じています。

令和8年度から新たに地域交流研修会が始まります。これは、人権や地域が抱えている課題についてテーマに沿って交流する会です。各地区より、興味のある人に参加していただき、体験をとおして、親睦を深めたり、町内各地の地域を巡って知っていただいたりする活動を計画しています。広報や公民館をとおしてお知らせしますので、興味のある人はぜひご参加ください。